

# BORDERLESS IR CO., LTD

## ANNOUNCES NEWSLETTER

株式会社ダイキアクス(4245 東証1部)  
2020年12月期決算概要

2021年2月17日東京

### 「2021年12月期は増収増益を計画。引き続き持続的安定配当を実施」

#### 決算概要

○当連結会計年度の同社グループを取り巻く経営環境は、国内外ともに新型コロナウイルス感染症の急速な拡がりで悪化、業界では営業活動の制限により受注が先延ばしとなる等の影響が出た。

○このような状況下、2019年度から2021年度における中期経営計画「Make FOUNDATION Plan(ESG経営の推進)」に取り組んできたが、コロナウイルス感染症の影響が中長期的な業績に与える影響が未確定なことが多く、計画期間半ばで定量目標を取り下げた。同中期経営計画の定性目標は将来の収益性の向上に重点を置いた戦略で、引き続き推進している。具体的には、環境機器関連事業セグメントにおいては、海外における事業展開の推進、ストックビジネスとしてのメンテナンス事業及び上水エスコ事業の営業強化、住宅機器関連事業セグメントにおいては、ECビジネスの開始、新商材発掘等、安定事業から成長事業へ転化、再生可能エネルギー関連事業においては、循環型社会の実現と安定収益確保の強化を推進している。

○当連結会計年度の売上高は346億47百万円(前年同期比-3.1%)となったが、全般的な利益改善を進めた結果、売上総利益は73億36百万円(前年同期比+5.3%)、営業利益は10億45百万円(前年同期比+4.4%)、経常利益は12億11百万円(前年同期比+4.8%)となった。特別損益においては、連結子会社の株式会社DAD全株式を譲渡したことによる関係会社株式売却益1億52百万円、減損損失2億65百万円を計上した。また、非支配株主に帰属する四半期純利益については連結子会社の株式会社シルフィードにおける種類株主への年4.8%の優先配当が前第3四半期連結会計期間から計上されている。結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億77百万円(前年同期比-39.0%)となった。

○セグメントの経営成績だが、環境機器関連事業は、浄化槽・排水処理システムの売上高は前年同期比減少。前年同期は国内売上高では、大型案件の売上計上があったが、当期はそれに見合う売上高がなく、海外売上高も新型コロナウイルス感染拡大による景況悪化の影響を大きく受けた。なお、海外各国の連結子会社の決算日と連結決算日が中国以外は異なっており、各社数値は2020年9月30日現在で仮決算を行った財務諸表を基礎としている。ストックビジネスについては、浄化槽および排水処理メンテナンス事業において新規メンテナンス契約の受注により前年同期と比べ堅調に推移、上水事業エスコ収入においては顧客の使用水量減少等により前年同期と比べ減

少した。結果、環境機器関連事業の売上高は176億87百万円(前年同期比-4.8%)、セグメント利益(営業利益)は、11億99百万円(前年同期比+12.3%)となった。

○住宅機器関連事業は、建設関連業者売上は、関連するサプライヤーの部品生産拠点が中国国内に多く、第1四半期連結会計期間に商品の入荷遅延があったが、代替商品への切り替えにより対処できた。また、リフォーム関係の需要が新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって減少したがDCMグループ店舗設備の更新需要の発生及び新規エリア拡大のための大阪、東京への進出等の理由により、前年同期と比べ堅調に推移した。住機部門工事はDCMグループ店舗新築の大型案件があったものの全体的に中大型案件が少ない状況だった。しかしながら2019年10月に連結子会社となった株式会社富士原冷機の売上取込があり、前年同期と比べ堅調に推移した。ホームセンターリテール商材は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で同社が取り扱う商材の需要が減少、ECビジネスにおいても感染症拡大の影響により、エンドユーザーへの現地調査等の営業活動が停滞した。結果、住宅機器関連事業の売上高は147億42百万円(前年同期比+0.7%)、セグメント利益(営業利益)は、3億13百万円(前年同期比-14.6%)となった。

○再生可能エネルギー関連事業は、太陽光発電に係る売電事業において、2018年度よりDCMグループの店舗屋根を賃借して発電施設を建設し、固定価格買取制度(FIT)を利用した売電を実施。当連結会計年度は、7件の施設について売電を開始していることから、前期より大幅に増加した。その他、バイオディーゼル燃料事業及び小型風力発電機関連事業は、前期と比べ減少した。結果、再生可能エネルギー関連事業の売上高は、9億4百万円(前年同期比+29.4%)、セグメント利益(営業利益)は、3億47百万円(前年同期比+35.7%)となった。

○その他の事業は、土木工事業において、株式会社DADを第2四半期連結会計期間末に売却したことにより売上高は大きく減少した。家庭用飲料水事業は、前年同期と比べ堅調に推移した。この結果、その他の事業は売上高13億12百万円(前年同期比-28.6%)、セグメント利益(営業利益)は1億71百万円(前年同期比+12.4%)となった。

○財政状態に関しては、前期同様の大型案件がなく流動資産が減少、株式会社DADの全株式を譲渡、またのれんの減損損失を計上したことにより固定資産が減少した。また株式会社DAD全株式譲渡、短期借入金返済により流動負債が減少。また太陽光発電に係る売電事業及び小型風力発電事業に係る設備投資を資金使途としたグリーンボンド(適格機関投資家限定の無担保社債)を発行したことにより、固定負債が増加した。

○2021年12月期の連結業績見通しについては、国内および海外における経済活動は引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により2021年中は停滞が予想される。この状況を踏まえ売上高354億円(前期比+2.2%)、経常利益13億円(前期比+7.3%)、親会社株主に帰属する当期純利益7億円(+46.7%)、1株当たり当期純利益56円43銭としている。なお、配当に関しては安定的な利益還元と会社の継続的な成長を基本方針としており、6月30日を基準日とする中間配当と期末配当の年2回としている。次期の配当については中間配当金を1株当たり12円、期末配当金を1株当たり12円とし、通期では1株当たり24円とする予定である。

株式会社ダイキアキス(4245 東証1部)( <http://www.daiki-axis.com/index.html> )

2020年12月期決算短信については、こちらをご参照ください。

→ <http://www.daiki-axis.com/ir/info/index.html>

## リリースの免責事項

本リリースは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。なお、本サービスにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

## リリースに関する照会先

Borderless IR 株式会社 <http://b-ir.co.jp/japanese/main.php>

〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-2-10 東洋ビル 6F

TEL 03-4588-6706 担当:福田 徹

お問い合わせ <http://b-ir.co.jp/japanese/contact.php>

Borderless IR は、国内・海外向けIR情報配信専門の会社です。国内・世界有数のメディア、企業情報データベース、メーリングリスト等を通じ、海外投資家にダイレクトに企業の最新情報と本質的な強みを主としてニュースレターとアナリストレポートで配信しています。その他、海外IR支援全般を手掛けているプロフェッショナル企業です。

©Borderless IR Co., Ltd. All rights Reserved

本リリースに掲載された内容を許可なく複製、転載することを禁じます。